コード No. 10349

Anti-Human
c-Kit (12A8) Mouse IgG MoAb

容量 ： 100 µg

はじめに ： *c-kit* 遺伝子はもともとネコ肉腫ウイルスのがん遺伝子である *v-kit* の細胞ホモログで、マクロファージコロニー刺激因子 (M-CSF) あるいは血小板由来増殖因子 (PDGF) に対するレセプターと類似の構造を持ったチロシンキナーゼ (c-Kit) をコードしています。 c-Kit は SCF (Stem Cell Factor) と結合することによって活性化し、それが c-Kit の細胞質内のチロシンを自己リン酸化し, Phosphatidyl-inositol 3-kinase などの基質と結合するようになることが知られています。 近年, c-Kit がマスト細胞と Cajal の介在細胞 (ICCs) から発生するヒト腫瘍との関係が報告され、注目されています。GIST (Gastrointestinal stromal tumor) における *c-kit* 遺伝子の関与においては、消化管の GIST のほとんどが c-Kit を発現し, 平滑筋腫や神経鞘腫では c-Kit の発現を認めません。ICCs がヒトの胃腸の壁を構成する細胞の中で唯一 c-Kit と CD34 を発現しているという事実から、GIST は ICCs 由来であると考えられています。
本モノクローナル抗体は、ウエスタン ブロッティング、免疫沈降試験により、c-Kit を認識し、c-Kit 発現細胞に対する FACS 解析も可能です。また、本抗体の添加によって、リガンド結合に依存的な c-Kit のリン酸化が抑制されることも確認されており、中和抗体としもて使用していただけます。

免疫抗原 ： ヒト c-Kit の細胞外領域のリコンビナントタンパク質

起源 ： マウス×マウス ハイブリドーマ（培養上清)
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 ： 12A8 サブクラス ： IgG_1

精製方法 ： Protein A による特異精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 ： 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 ： ウエスタン･ブロッティング 1～5 µg/mL にて使用可能
： 免疫沈降法 3～5 µg/mL にて使用可能
： FACS 解析 0.1～0.5 µg（1×10^5 Cells あたり)にて使用可能

： 中和活性有り。(c-Kit 発現細胞株において、20 ng/mL のリガンド結合に依存的な c-Kit のリン酸化を指標とした時、10 µg/mL の抗体添加により中和活性確認)
＊中和試験に用いる場合は、BSA と NaN_3 を含まない抗体をご用命ください

特異性 ： SY 細胞を用いたウエスタン･ブロッティングにて特異性確認

株式会社 免疫生物研究所
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp
061209/KK
120315/KK